

とが出来たのだと思う。何も積み上げて来れなかった今年前半。残したものは何もない。しかし、だからこそ、何もできなかった分ここに全てが出されたのではないかと思う。応援してくれた保護者の方々もOGOBの先輩方も、すべて今年前半のエネルギーをここに出してくれたのだと思う。

そういう意味では、今年であったからこのショウが出来たのだと思う。全ての方に感謝致します。

ありがとうございます。最後は、全国大会で「ラストショウ」にふさわしい発表をします。

## 美術部

仙台市立仙台高等学校

松崎颯香



私が所属する美術部は、先輩と後輩が分け隔て無く気軽に活動できる「楽しい場」となっています。自分の趣味を語り合い、作品に対してアドバイスし合うなど部員同士の仲は良く、いつも温かな雰囲気です。主な活動は対外的な活動として市内展や県展に出品する作品を制作し、校内では文化祭のポスター制作やパンフレットの表紙絵、生徒会誌に掲載する絵を依頼されるなど多岐に渡ります。

しかし、今年は想像もしなかったコロナウイルス感染拡大のため7月開催予定の市内展が中止。休校が長引いたことにより文化祭の準備も限られた時間の中で進めなければいけない状況に陥りました。多くの部員は、納得できる作品を制作することはできなかったようですが、それでも友達や先生方、来校者の方々に「これからも活動頑張ってるね」と声援をいただいたことは、とても嬉しく今後の制作の励みとなるものでした。今年の活動は大変なこともありましたが、自分の将来

のことや、社会の在り方について考えることができました。コロナ禍ではありますが、少しでも前向きな気持ちで日々歩んでいきたいと思えます。

また、今年はインターネット上で開催された「こうち総文祭」ではありますが、とても充実した「学び」ができました。環境汚染や地球温暖化などの社会問題を訴えている作品も多く見受けられ、完成度の高さはもちろん、表現の仕方や着眼点が興味深く、見ていると引き込まれる素敵な作品ばかりでした。これからの未来は我々の世代に託されている課題が多くあるのだと作品をみて痛感しました。

高校入学後の三年間で、私の絵に向き合う姿勢は劇的に変わりました。芸術には楽しむだけではなく、世の中を変える力があることを学ぶとともに、自分も芸術の力で未来をより良くしていきたいと思うようになりました。「こうち総文祭」で得たものを活かし、今後は社会を多面的に分析し、浮き彫りになっていない課題などを作品で訴えていこうと思います。

## 書道部

仙台育英学園高等学校

主将 岡 茜里



私たちの仙台育英学園高等学校書道部は、「全国高等学校総合文化祭」や「国際高校生選抜書展（書の甲子園）」などの全国大会を目指し、年間を通して作品作り